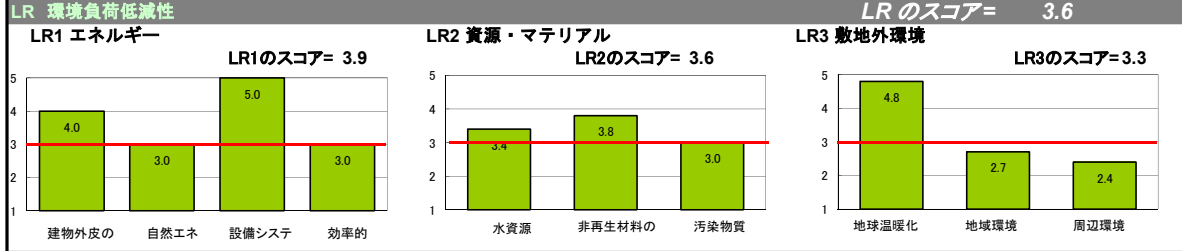
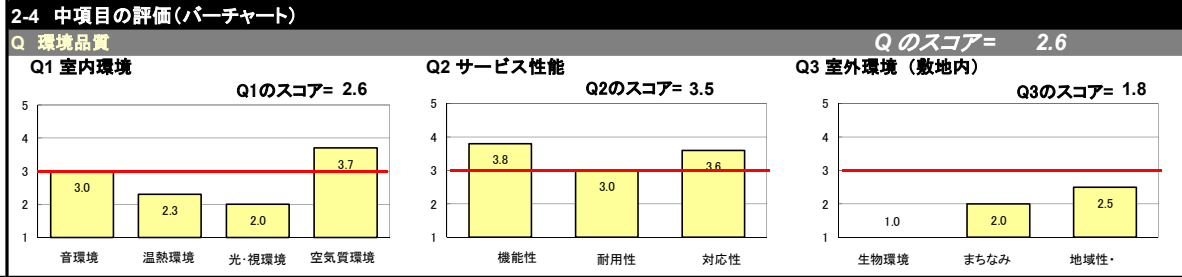
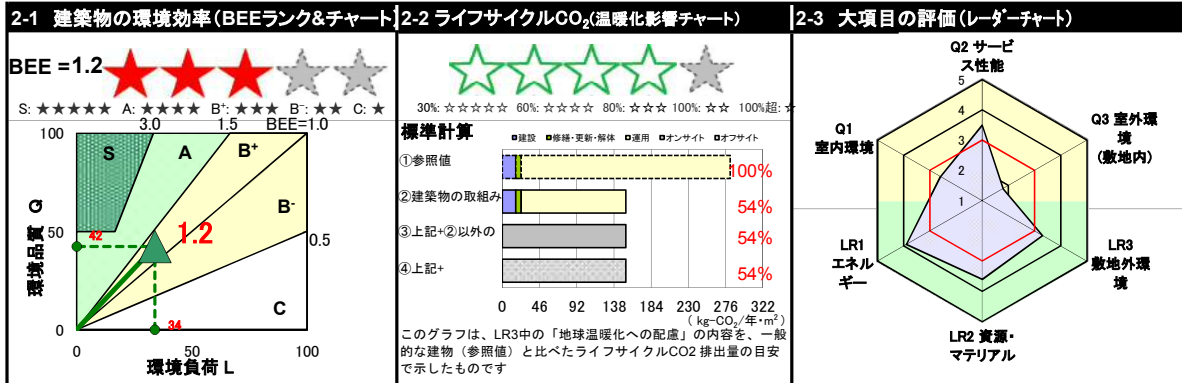


1-1 建物概要				1-2 外観	
建物名称	(仮称)クロスモール豊川 A①棟	階数	地上2階建て	外観/パース等	
建設地	豊川市正岡町池田692-1他14筆	構造	S造		
用途地域	準工業地域	平均居住人員	49人		
気候区分	6地域	年間使用時間	5,110時間/年		
建物用途	物販店	評価の段階	実施設計段階評価		
竣工年	2018年2月 予定	評価の実施日	2017年5月11日		
敷地面積	6,462 m ²	作成者	前田芳弘		
延床面積	8,151 m ²	確認日	2017年5月11日		
		確認者	前田芳弘		



3 重点項目

<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">4.8</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <p>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</p> <p style="text-align: center;">0.0 %</p> <p>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</p> <p style="text-align: center;">0.0 %</p>
<h4>②資源の有効活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.5</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <p><外装材に使用した地域性のある材料></p> <p>なし</p> <p><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材></p> <p>なし</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
LR-3 1 地球温暖化への配慮
②資源の有効活用
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減
③敷地内の緑化
Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

みんなの環境活動を応援しています

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部							建物全体・共用部		居住・宿泊部分		全体
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄			評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	全体	
		Q 建築物の環境品質													
Q1 室内環境														2.6	
1 音環境															
1.1 室内騒音レベル														3.0	
1.2 遮音															
1 開口部遮音性能														3.0	
2 界壁遮音性能														3.0	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)														-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)														-	
1.3 吸音														3.0	
2 温熱環境														2.3	
2.1 室温制御														3.6	
1 室温														3.0	
2 外皮性能														3.0	
3 ゾーン別制御性														5.0	
2.2 湿度制御														1.0	
2.3 空調方式														1.0	
マルチユニット型ヒートポンプ方式(冷暖同時)による空調。															
3 光・視環境														2.0	
3.1 昼光利用														3.0	
1 昼光率														3.0	
2 方位別開口														-	
3 昼光利用設備														3.0	
3.2 グレア対策														-	
1 昼光制御														-	
3.3 照度														-	
3.4 照明制御														1.0	
4 空気質環境														3.7	
4.1 発生源対策														5.0	
1 化学汚染物質														5.0	
全面的にF☆☆☆☆を使用している。															
4.2 換気														2.0	
1 換気量														3.0	
2 自然換気性能														-	
3 取り入れ外気への配慮														1.0	
4.3 運用管理														3.0	
1 CO ₂ の監視														1.0	
2 喫煙の制御														5.0	
店舗全体を禁煙としている。															
Q2 サービス性能														3.5	
1 機能性														3.8	
1.1 機能性・使いやすさ														4.0	
1 広さ・収納性														-	
2 高度情報通信設備対応														-	
3 バリアフリー計画														4.0	
独自 建築物移動等円滑化基準を満たす。															
1.2 心理性・快適性														4.0	
1 広さ感・景観 (天井高)														5.0	
売場天井高4.0m															
2 リフレッシュスペース														3.0	
3 内装計画														4.0	
評価する取組みは3つ。															
1.3 維持管理														3.5	
1 維持管理に配慮した設計														4.0	
2 維持管理用機能の確保														3.0	
評価する取組みは6つ。															
2 耐用性・信頼性														3.0	
2.1 耐震・免震・制震・制振														3.0	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)														3.0	
2 免震・制震・制振性能														3.0	
2.2 部品・部材の耐用年数														3.0	
1 躯体材料の耐用年数														3.0	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔														2.0	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔														3.0	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔														3.0	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔														5.0	
6 主要設備機器の更新必要間隔														3.0	
給水:B、汚水排水:B、雑排水:B、通気:A															
2.4 信頼性														3.2	
1 空調・換気設備														3.0	
2 給排水・衛生設備														5.0	
3 電気設備														3.0	
4 機械・配管支持方法														3.0	
5 通信・情報設備														2.0	
評価する取組みは3つ。															

3 対応性・更新性				3.6	0.29			-	3.6
3.1 空間のゆとり		②	1階階高=5.33m、2階階高=6.22m 耐力壁なし。	5.0	0.31			-	
1 階高のゆとり				5.0	0.60			-	
2 空間の形状・自由さ				5.0	0.40			-	
3.2 荷重のゆとり				3.0	0.31			-	
3.3 設備の更新性				3.0	0.38			-	
1 空調配管の更新性				3.0	0.17			-	
2 給排水管の更新性				3.0	0.17			-	
3 電気配線の更新性				3.0	0.11			-	
4 通信配線の更新性				3.0	0.11			-	
5 設備機器の更新性				3.0	0.22			-	
6 バックアップスペースの確保		3.0	0.22			-			
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.30			-	1.8
1 生物環境の保全と創出		独自③		1.0	0.30			-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮		独自④		2.0	0.40			-	2.0
3 地域性・アメニティへの配慮				2.5	0.30			-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		独自④		3.0	0.50			-	
3.2 敷地内温熱環境の向上				2.0	0.50			-	
LR 建築物の環境負荷低減性									3.6
LR1 エネルギー					0.40				3.9
1 建物外皮の熱負荷抑制			非住宅部:[BPI][BPI _m] = 0.88	4.0	0.30			-	4.0
2 自然エネルギー利用				3.0	0.20			-	3.0
3 設備システムの高効率化			BEI=0.50	5.0	0.30			-	5.0
4 効率的運用				3.0	0.20			-	3.0
集合住宅以外の評価				3.0	1.00			-	
4.1 モニタリング				3.0	0.50			-	
4.2 運用管理体制				3.0	0.50			-	
集合住宅の評価				-	-			-	
4.1 モニタリング				-	-			-	
4.2 運用管理体制				-	-			-	
LR2 資源・マテリアル					0.30				3.6
1 水資源保護				3.4	0.15			-	3.4
1.1 節水			節水コマ、省水型機器を使用。	4.0	0.40			-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.0	0.60			-	
2 1 雨水利用システム導入の有無				3.0	0.67			-	
2 2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.33			-	
2 非再生性資源の使用量削減				3.8	0.63			-	3.8
2.1 材料使用量の削減				3.0	0.07			-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.24			-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		②	-	3.0	0.20			-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		独自	ボード、壁紙、ブロック	5.0	0.20			-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材				2.0	0.05			-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		独自	評価する取組みは2項目。	5.0	0.24			-	
3 汚染物質含有材料の使用回避				3.0	0.22			-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用			評価対象とする建材種別は2つ。	4.0	0.32			-	
3.2 フロン・ハロンの回避				2.6	0.68			-	
1 消火剤				2.0	0.33			-	
2 発泡剤(断熱材等)				3.0	0.33			-	
3 冷媒				3.0	0.33			-	
LR3 敷地外環境					0.30				3.3
1 地球温暖化への配慮		①	ライフサイクルCO2排出率が一般建物に対し54%。	4.8	0.33			-	4.8
2 地域環境への配慮				2.7	0.33			-	2.7
2.1 大気汚染防止				3.0	0.25			-	
2.2 温熱環境悪化の改善				2.0	0.50			-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				4.0	0.25			-	
1 雨水排水負荷低減		独自	基本普雨高100mmに必要な普雨高を敷地内で確保している。	5.0	0.25			-	
2 汚水処理負荷抑制				3.0	0.25			-	
3 交通負荷抑制		独自	評価ポイントは4ポイント。	5.0	0.25			-	
4 廃棄物処理負荷抑制				3.0	0.25			-	
3 周辺環境への配慮				2.4	0.33			-	2.4
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40			-	
1 騒音		独自		3.0	0.33			-	
2 振動		独自		3.0	0.33			-	
3 悪臭				3.0	0.33			-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				1.6	0.40			-	
1 風害の抑制				1.0	0.70			-	
2 砂塵の抑制				3.0	-			-	
3 日照障害の抑制				3.0	0.30			-	
3.3 光害の抑制				3.0	0.20			-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策				3.0	0.70			-	
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策				3.0	0.30			-	

重点項目スコアシート

(仮称)クロスモール豊川 A1棟

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				4.8
LR3-1	地球温暖化への配慮	4.8	0.10	
② 資源の有効活用				3.5
Q2-2	耐震性・信頼性	3.0	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.6	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.8	0.19	
③ 敷地内の緑化				1.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.09	外構緑化:0%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用			(評価ポイント)	1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 (仮称)クロスモール豊川

計画上の配慮事項	
総合	地域貢献を目指した環境整備に総合的に考慮
Q1 室内環境	・設定温度 夏26° C冬20° Cで売場単位の空調システムとした。
Q2 サービス性能	<ul style="list-style-type: none"> ・バリアフリーの整備 ・売場天井高さ4m(3.6m以上)とし広さ感を考慮 ・内装計画は評価する取組3項目以上を考慮 ・維持管理は評価する取組6項目以上を考慮
Q3 室外環境(敷地内)	<ul style="list-style-type: none"> ・空間提供による地域貢献に考慮 ・災害時における自家発電による電気・給水の利用を可能とした地域貢献に考慮
LR1 エネルギー	・外皮断熱性能4等級仕様による熱負荷制御を考慮
LR2 資源・マテリアル	<ul style="list-style-type: none"> ・節水コマ、省水型機器による水資源保護を考慮 ・有害物質を含まない材料の使用による汚染物質含有材料の使用回避に考慮
LR3 敷地外環境	<ul style="list-style-type: none"> ・基本蓄雨高100mmを敷地内に確保し雨水排水負荷低減に考慮 ・自転車、駐車場について評価する取組4項目以上による交通負荷制御を考慮 ・ゴミの量や種類を推計し分別回収を推進し廃棄物処理負荷制御に考慮
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・建設工事における廃棄物削減・リサイクルへの環境配慮の取組み ・工事車両の駐車場確保と誘導員による環境配慮の取組み